様式4

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会

（責任者名）幸　田　威久矢
（役職名）委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	プログラムの履修・修得状況に関する分析については、教務課が実施している。 幼児保育学科において、当該プログラムを構成する科目である「情報処理」(1年次春学期開講)は、幼稚園教諭免許の必修科目ならびに保育士資格の選択必修科目であるため、全員が履修しているが、「データサイエンス入門」(2・3年次秋学期開講)は教養選択科目であるため、履修者が少ない状況にある。 介護福祉学科においては、1年次春学期に開講する「情報処理法」が卒業に必要な必修科目であるため、全員が履修し、単位修得している。また、「データサイエンス入門」は選択科目であるが、1年次秋学期に開講し「情報処理法」と連続した履修に繋がっている。
	学修成果	令和7年度の授業アンケートにおいて、「学びや成長につながる授業でしたか？」という質問に対し、4段階評価で「ややそう思う」および「そう思う」との肯定的な回答は、「情報処理」、「情報処理法」で95.2%、「データサイエンス入門」で88.2%を占め、一定の評価を得ていることが確認できた。 今後は、卒業時アンケート、履修カルテ（こども教育学科）、ルーブリック評価（介護福祉学科）での分析も行う予定である。
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「データサイエンス入門」では、毎回の授業で学修支援システムのアンケート機能を活用し、「本日の授業について理解できたこと、できなかったこと、授業のポイント」などを学生に記述してもらうことで、一人ひとりの理解度を把握することができた。また、授業アンケートでは、スライドや資料の分かりやすさ、質問や相談のしやすさといった授業環境に関するデータも収集している。 これらの結果をもとに、教員は、学生の理解を深めるための授業改善に活用している。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートの結果については、FD報告書に掲載され、学生にも公開されている。また、アンケート結果には、教員による改善点やコメントも併せて記載しているため、学生は、アンケート結果や教員のコメントを通じて、本プログラムの授業内容や改善の取り組みについて情報を得ることができる。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度の在学者数に対する本プログラムの履修率は、幼児保育学科（2年生）で9.1%、介護福祉学科で92.3%であった。幼児保育学科では、プログラム構成科目の履修が1年次と2年次以降に分かれているため、2年次以降で本プログラムの履修が確定する。 2年次におけるオリエンテーション、さらにゼミ担任・カレッジアドバイザーを通じて、学生の意欲を喚起し、本プログラムの履修率向上を強力に推進する。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		%
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	これからの保育・介護現場では、AIによる見守りや介護ロボット、業務記録の音声入力などの導入が予想される。これらを使いこなすための基礎力として、情報処理、データサイエンスの履修が極めて重要になる。 今後は、学修成果の把握として、本学で実施している「就職先による卒業生評価アンケート（事業所アンケート）」に、「データに基づいた客観的な記録・報告」、「AI・デジタルツールを用いた業務改善の姿勢」といった項目を新たに追加し、評価・分析を行う予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、地域の保育・幼児教育施設および介護福祉施設の代表者で構成される「関係団体懇談会」を毎年開催しており、これが産業界の視点を取り入れる最も主要な場となっている。 今後は、教育プログラム内容や学修成果について説明し、意見を求める予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶ意義」の理解を促すため、データサイエンスを活用した「課題解決力」の養成に主眼を置く。 客観的なデータ分析に基づき、現場でより質の高いケアや教育を提案・実践できる力が、次世代の専門職にとって不可欠な能力となることを説明し、学修への動機付けと深い理解に繋げていく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		授業支援システムを用いて実施している授業アンケートにおいて、「授業の板書やPowerPointスライド、配布資料などがわかりやすく適切にまとめられていましたか？」等の設問を通じ、教材の適切性を確認している。 担当教員は個別の評価結果を真摯に受け止め、学生の視点に立った「分かりやすさ」の向上を目指し、教授方法や資料構成の継続的な見直し・改善を図っている。